

2011年1月4日

新年あいさつ

代表取締役社長 島川 恵一郎

NSユナイテッド海運グループの社員並びにご家族の皆さま、明けましておめでとうございます。皆さまそれぞれに良いお年を迎えられたことと思います。新年にあたりまして、私の所信の一端を申し上げ、皆さんとともに新しい年のスタートを切りたいと思います。

皆さんの努力とがんばりに感謝

昨年は私どもにとってまさに歴史を画す大きな変化の年でありました。それぞれ長い歴史を持った会社が合併し、新たな商号の下、新たな本店に移転し、そして短期間の間に大変スムーズに新会社の営業を開始することができました。規模の大小の違いはあれ、合併というのは大変な事業であります。社員の皆さんにはいろいろなご苦勞があったことと思いますが、課題を前向きに捉え、積極的な姿勢で本当によく努力をしていただき、がんばっていただきました。

新しい年のスタートにあたり、この新会社のまことにスムーズな立ち上げに際し皆さんそれぞれの立場で、大いなる努力を傾注していただいたことに、改めて感謝の意を表する次第です。

厳しい環境に対処しつつ成長戦略の実行を

さてこうした間にも、私どもが対処すべき世界の経済情勢には大きな変化が表れつつあります。欧州では財政破綻の危機的状況が再発する可能性のある国々が出てきておりますし、米国も未だ雇用は弱く、その回復の足取りは脆弱です。日本についてはご承知のとおり、デフレなどの構造問題に円高が加わり未だ低迷が続く状況です。こうした中で、中国もこれまでの量的成長重視から環境・エネルギー問題などの制約やインフレ対策を意識した質的成長重視路線への大きな転換点を迎えています。こうした状況を考えるとリーマンショック後の世界経済は、再び安定回復基調に戻るか否か、その道筋が未だ見えない状況にあると言えます。

こうした情勢下、資源エネルギーの海上輸送量など需要の伸びが停滞する一方、外航海運とりわけタンカーおよびバルク分野では、大型船の大量竣工に伴う供給圧力の増大が、昨年後半以降、運賃・用船市況に対し顕著な下押し圧力としてその影響が表れております。2011年のドライバルク市況についても、この継続する大量竣工による供給過剰問題がさらに増幅され、運賃市況の低迷が顕在化することを十分警戒して行動しなければなりません。一昨年来、寛会長は『2010年問題は2010年だけの問題ではなく、この問題への対処を誤れば将来に大きな禍根を残す』との警鐘を鳴らし続けておられますが、まさに私も同様の認識であり、ドライバルクを主力分野とする当社は、本年いよいよ現状認識を厳しく持って経営に対処しなければならないと考えております。

しかしながら一方で、中国のみならず、インド・インドネシア・シンガポール・タイなど東南アジア諸国、並びに南米を含む環太平洋の資源保有国など、地域によっては再び堅調な成長軌道に戻りつつあります。新会社の成長発展を図るためには、それら新興成長地域での新たなビジネスチャンスを積極的に捉え、新会社の業容の拡大に結びつけていかなければなりません。

従って本年は、厳しい経営環境認識をベースに、“リスクに対するディフェンスをしっかりと堅持する一方で、攻めるべき成長地域あるいは分野をしっかりと見極め積極的に対処する”という、メリ

ハリのきいた戦略軸をしっかりと持ち、経営の舵取りをすることを基本にしたいと考えています。

同時に本年に臨む基本姿勢としてもう一つ皆さんに強調したいのは、昨年の合併に伴う会社作りといういわば内部固めの問題意識のフェーズからいち早く脱却し、変化の激しい、また競争の激化する世界海運市場の中で、本来集中すべき“いかに新会社の競争力を強化し成長発展を図るか”という、市場・荷主殿などへの対外営業戦略あるいは中長期をにらんだ未来志向の戦略の実行へと問題意識を再集中し、グローバルな競争に全力で邁進する年にしなければならないということであり、ます。

本年はこの大きな2つの基本姿勢を皆さんと共有しつつ、具体的な課題に取り組んでまいりたいと思います。私が年頭にあたり本年特にお願いをいたしたい主要課題は以下の3点であります。

事故ゼロ、災害ゼロの安全確実な運航体質の徹底強化

言うまでもなく安全確実な運航体制の確立は企業活動継続のための大前提であります。言い換えると海運会社の実力の基本であります。皆さんの懸命な努力にも関わらず直近では11月に本船のカーゴホールド損傷事故が起きるなど、オペレーションの基本動作に関わる人為的なミスが原因と思われる事故が発生したことは誠に残念でなりません。これらの反省と対策を契機として、“真の安全確実な運航体制”の確立のため、状況が変わっても、人が変わっても、何が起こっても冷静沈着に基本動作がキチンとできる人作り・業務システム作りに再度取り組んでください。そのためには、実践的かつ基礎的な教育訓練を海外現地も含め、もう一度粘り強く繰り返し徹底する必要があると思います。本年は新会社の実質的なスタートの年でもあり、今一度“ソフト・ハードの両面で、常に安全確実な運航を誇れる体質作り”に向けNSユナイテッドマリンを含む関係者の皆さんの総力を結集して、実感できる成果を挙げてもらいたいと思います。

合併効果の最大発揮を目指す新たな経営計画の策定

新会社としての経営計画の策定作業には既に取りかかってもらっていますが、3月中にはその基本をまとめ、新年度から全社一丸となってその実現に邁進する体制を整えたいと思います。新たな経営計画には、

- 1) 新会社にふさわしい売上・収益・財務目標の設定
- 2) 船隊のスケールメリット並びにその柔軟かつ機動的な活用による新たな海上輸送サービスの創出
- 3) 顧客基盤の内外での新たな開拓・活用による業容のさらなる拡大（とりわけ新日本製鐵殿のワールドワイドなビジネスネットワークなどを有効活用した他社にないユニークな営業展開、中国・南アジア地域への営業拡大など）
- 4) 徹底した業務・要員の効率化による戦力の戦略的な再活用とコスト削減による競争力の向上
- 5) 確固たる財務基盤の確立

等々、新会社の歩むべき道、取るべき基本戦略をはっきりと明示したいと考えています。そしてそれらを皆さん個人個人の努力目標のベクトルと合致させることにより、その実現に会社としての総力を結集してまいりたいと思います。皆さん自身もぜひそれぞれの立場で新会社の目標作りや成長戦略作りに積極的に参画し、その実践に邁進してほしいと思います。

グローバル化に対応し新経営計画の実現にふさわしい会社の体質作り

新会社発足人時にも皆さんにお願いをいたしました。私どもはこれから、常に質の高い海上輸送サービスを実行でき、大競争時代を勝ち抜ける、しなやかで強靱な体質を持ち、持続的な成長を続けることのできる、“真に実力のある会社”にならなければなりません。そのためには、グローバルな成長地域を見極め、顧客・貨物開拓、配船地域の拡大などを積極的に展開してゆかなければなりません。また外国人の活用も含む少数精鋭による個々人の高い能力、高いアンテナと情報感度、業務のスピードを備えた組織・人員・海外拠点体制を作り上げなければなりません。さらには、コスト競争力に富み顧客のニーズに的確に対応できる船隊整備と、効率的で高い技術力を持つ船舶官管理体制、拡大する船隊の安全運航を支える良質な船員の配乗体制、市況の大幅な変動にも耐え収益を確保できる会社全体の効率的で強いコスト体質、適格な投資がタイムリーに実行できる万全な財務体質、これまで両社で築き上げてきた信用を新会社においても守りさらに高めるための内部統制の実行、その他グループの総合力を発揮するグループ経営戦略の実行等々、先に述べた安全確実な船舶の運航体制を大前提にしつつ、新たな経営計画の実現を支える総合的な会社の体質を、より一層今後のグローバルな競争にふさわしい今日的ニーズに合致したものへと作り変えていかなければなりません。

また冒頭、極めて順調な新会社の立ち上げについて謝辞を申し上げましたが、合併会社である限り旧両社従業員の融和一体化が引き続き大きな課題であることは言を待ちません。会社としても個々人としても今後とも“風通しが良く、一体感と信頼感あふれる職場作り”に向け努力を続けてほしいと思います。

以上3つの主要課題についてお話しましたが、これらの課題に挑戦し新たな価値を生み出す源はなんといっても人であり、その人間の創造力・実行力・精神力だと思います。われわれ一人一人が不断の努力と研鑽を通じ人間力・洞察力を高め、先入観にとらわれぬ感性を磨き、高い志を持って物事を実行し続けることにより、新しい会社の将来が切り開かれるのだと思います。グローバルな世界に通用する人間は、実務や語学のみならず、高い精神性と豊かな人間性を持ち、世界中のさまざまな人と協力し合い、新たな価値を創造できる人間でなくてはなりません。仕事では逞しく鍛えられ、自由活発な議論が行われ、人間性が尊重され、豊かな精神性を持った若い才能が次々と伸び育ってゆく、私たちの会社をそういった“グローバルに活躍できる人材が育つ会社”にぜひともしてゆこうではありませんか。

また、“現場を大切にする会社、仕事に生き甲斐と誇りが持てる会社、顧客に信頼される会社、家族と社会にとってなくてはならない会社”となることを目指し、本年もみんなでがんばっていきましょう。

最後になりましたが、航海の安全と社員並びにご家族の皆さまのご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。